

1 調査名称：宗像市都市交通計画策定調査

2 調査主体：宗像市

3 調査圏域：北部九州都市圏

4 調査期間：令和2年度

5 調査概要：

本市の都市計画道路の多くは、昭和30年から昭和50年代に都市計画決定されているが、現在までの間に、開発や機能集積が進むなど都市構造が大きく変化するとともに、道路構造令の改訂にみられるような歩行者空間の充実や景観に対する意識の高まりなど、都市計画道路を取り巻く状況は様々な面で変化してきており、これらの変化に適切に対応する必要がある。

本市では、宗像市都市計画マスタープラン及び宗像市道路網整備計画に則して都市計画道路の整備を行ってきたところであるが、長期にわたって整備が行われていない路線が存在する。

これらの路線の必要性を検証するため、平成30年度から令和2年度にかけて都市計画道路見直しの検証作業を行っており、今回、最新のパーソントリップ調査データを使用した詳細な将来交通量推計を行い、長期未着手路線の状況変化等を把握することで、より適切な検証を行うものである。

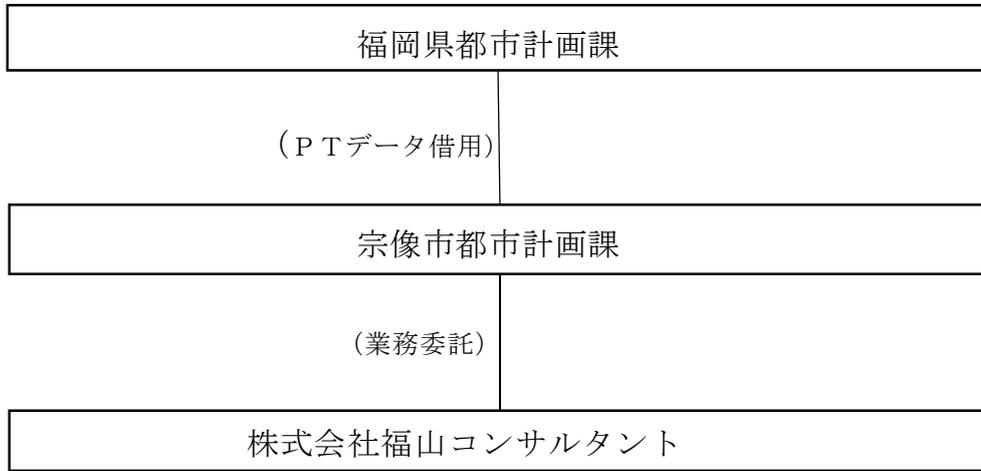
I 調査概要

1 調査名称：道路網評価検証業務委託

2 報告書目次

1. 検討対象路線・区間の整理
 - 1-1. 都市計画道路網の整備状況
 - 1-2. 検証対象路線・区間
2. 現況再現配分の実施
 - 2-1. 交通量推計の流れ
 - 2-2. 現況再現性の検証基準
 - 2-3. 現況再現配分結果
 - 2-4. 現況再現性の確認
3. 道路網評価
 - 3-1. 道路網素案（推計ケース）の設定
 - 3-2. 将来交通量推計
 - 3-3. 道路網評価

3 調査体制



4 委員会名簿等：

委員会等開催なし

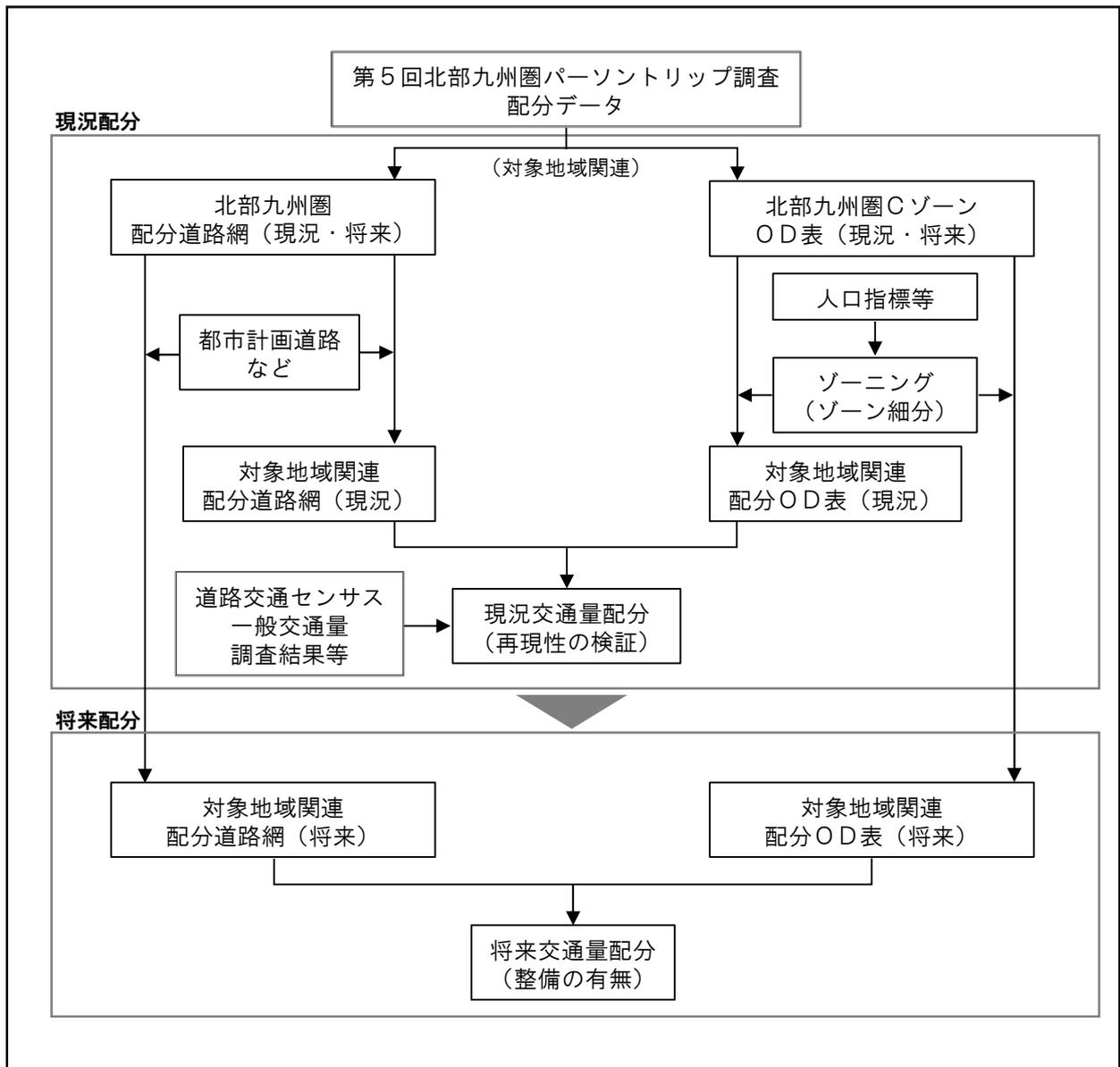
II 調査成果

1 調査目的

本市では、宗像市都市計画マスタープラン及び宗像市道路網整備計画に則して都市計画道路の整備を行ってきたところであるが、長期にわたって整備が行われていない路線が存在する。

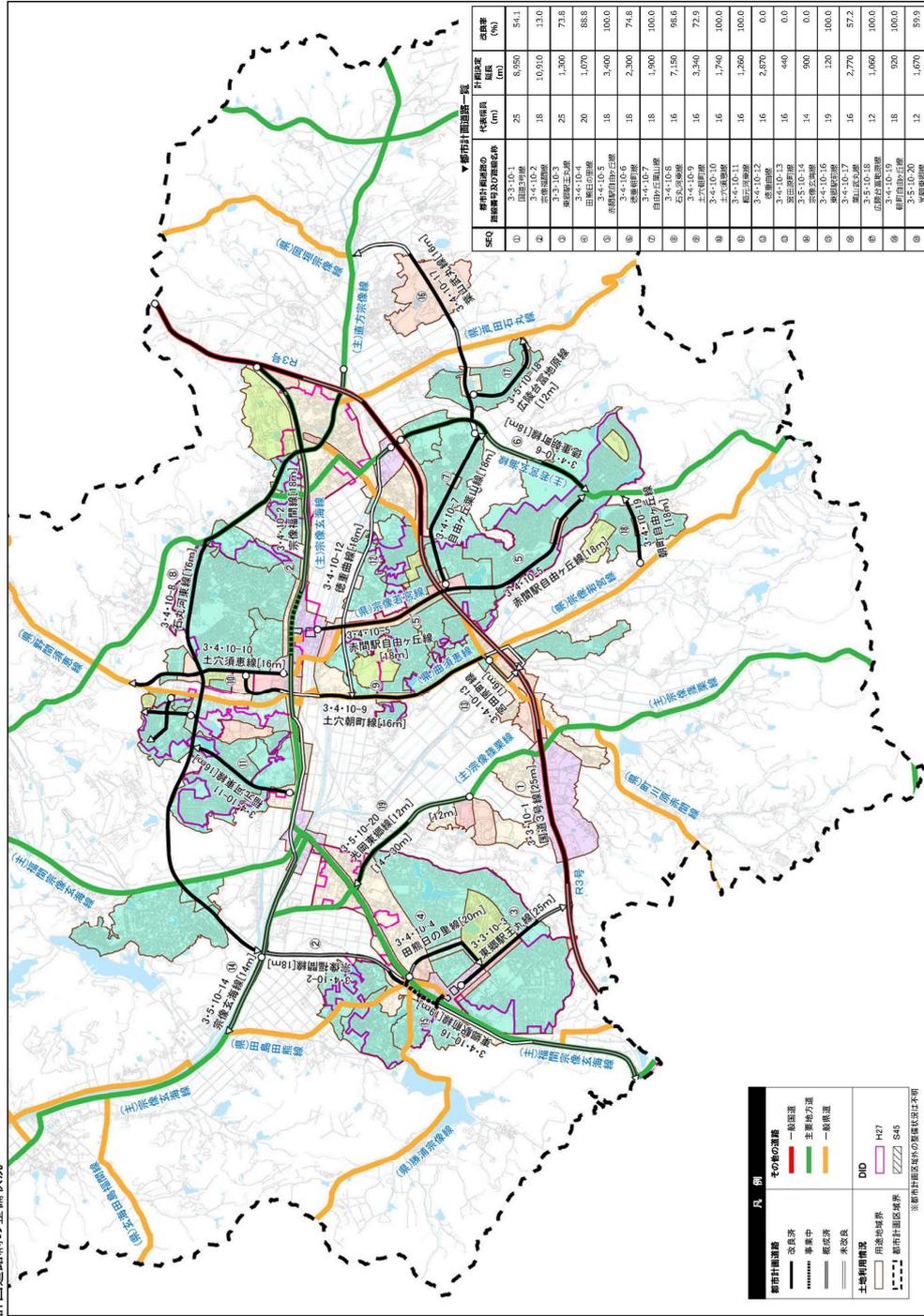
これらの路線の必要性を検証するため、平成30年度から令和2年度にかけて都市計画道路見直しの検証作業を行っており、今回、最新のパーソントリップ調査データを使用した詳細な将来交通量推計を行い、長期未着手路線の状況変化等を把握することで、より適切な検証を行うものである。

2 調査フロー



3 調査圏域図

1. 検討対象路線・区間の整理
1-1. 都市計画道路網の整備状況



▲ 都市計画道路網の整備状況

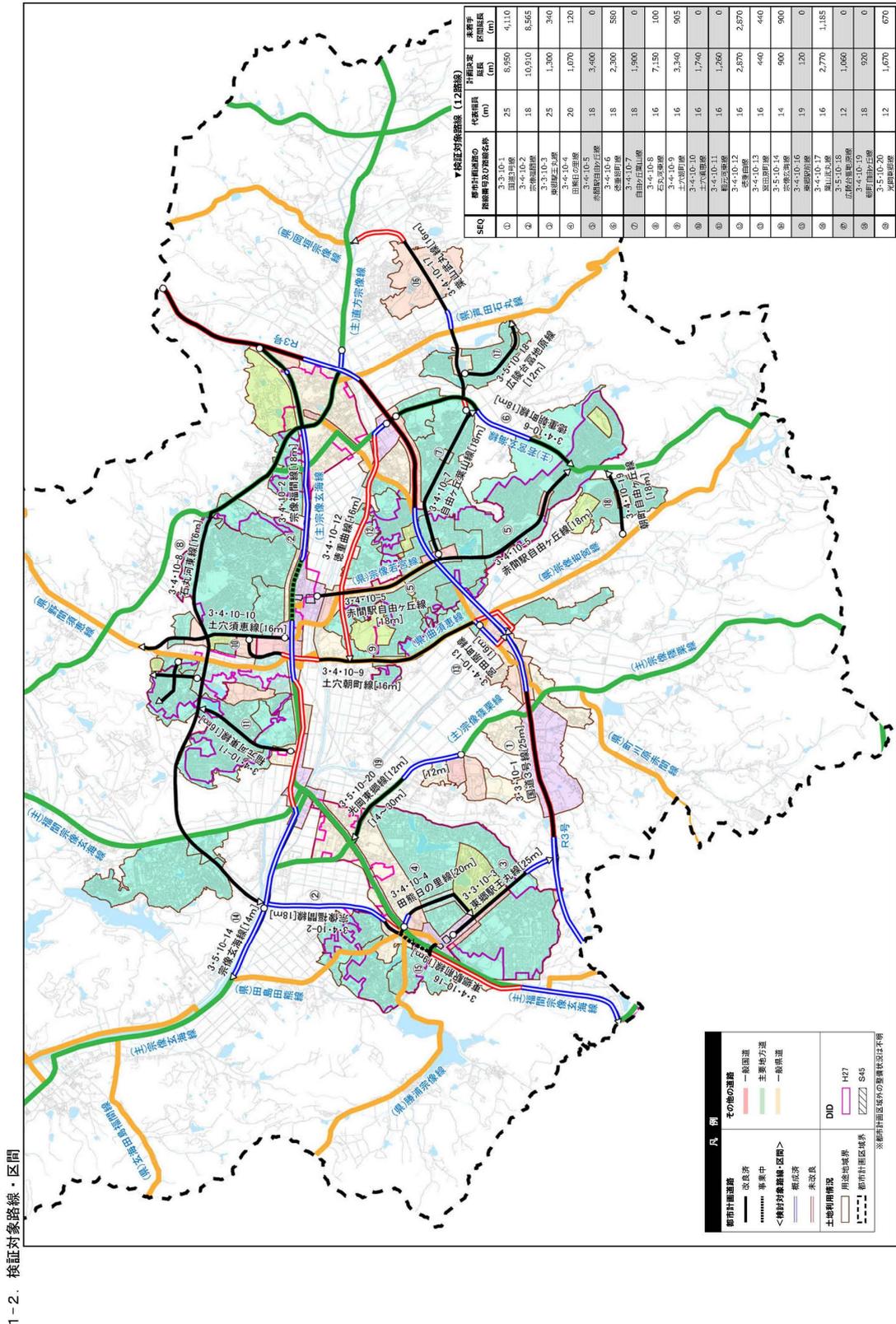
北部九州圏のエリア



4 調査成果

(1) 検証対象路線・区間

検証対象は、事業中・整備済以外の路線・区間とした。



(2) 現況再現配分結果

配分結果は、第5回北部九州圏パーソントリップ調査のH29自動車OD表を使用して、Dゾーンレベルの配分関係データを参考に宗像市において推計を行った。

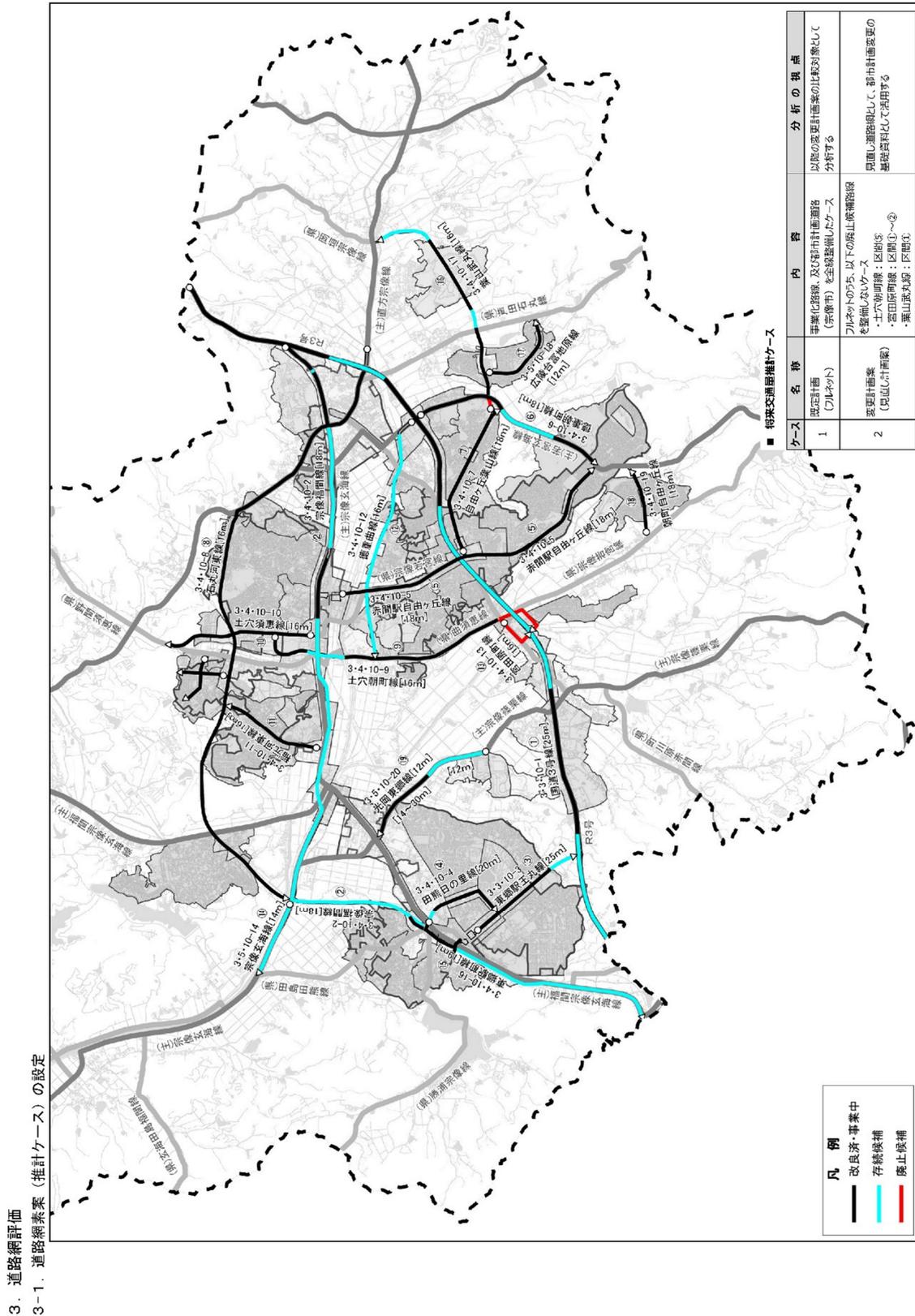


2-3. 現況再現配分結果

※この配分結果は、第5回北部九州圏パーソントリップ調査のH29自動車OD表を使用して、Dゾーンレベルの配分関係データを参考に宗像市において推計を行ったものである。

(3) 道路網評価 (推計ケースの設定)

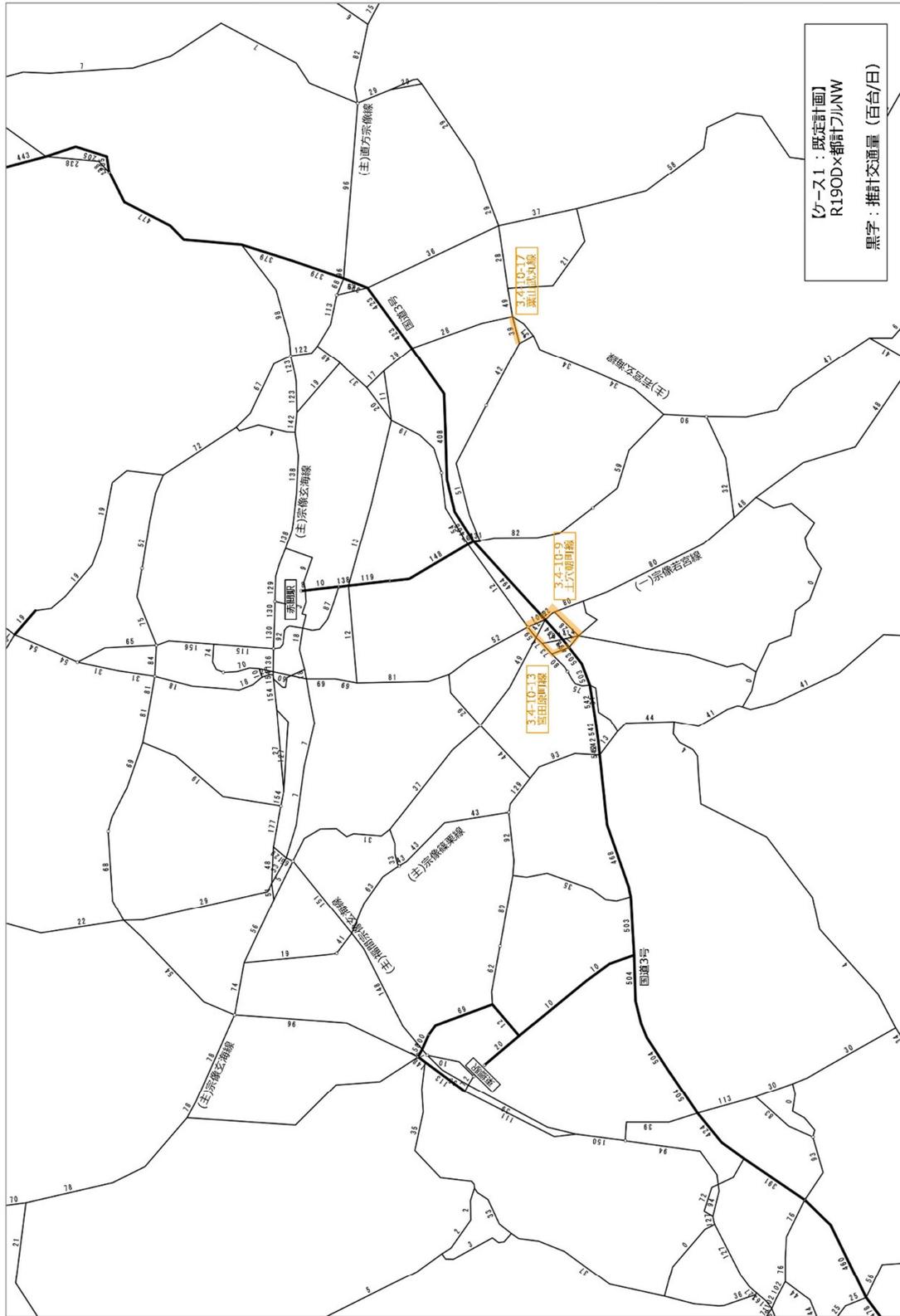
将来交通量は、既定計画で整備したケースと、廃止を検討している路線・区間（土穴朝町線：区間⑤、宮田原町線：区間①～②、葉山武丸線：区間①）を整備しないケースで推計するように設定した。



(4) 将来交通量推計（既定計画）（R19）

既定計画における将来交通量推計を行った。

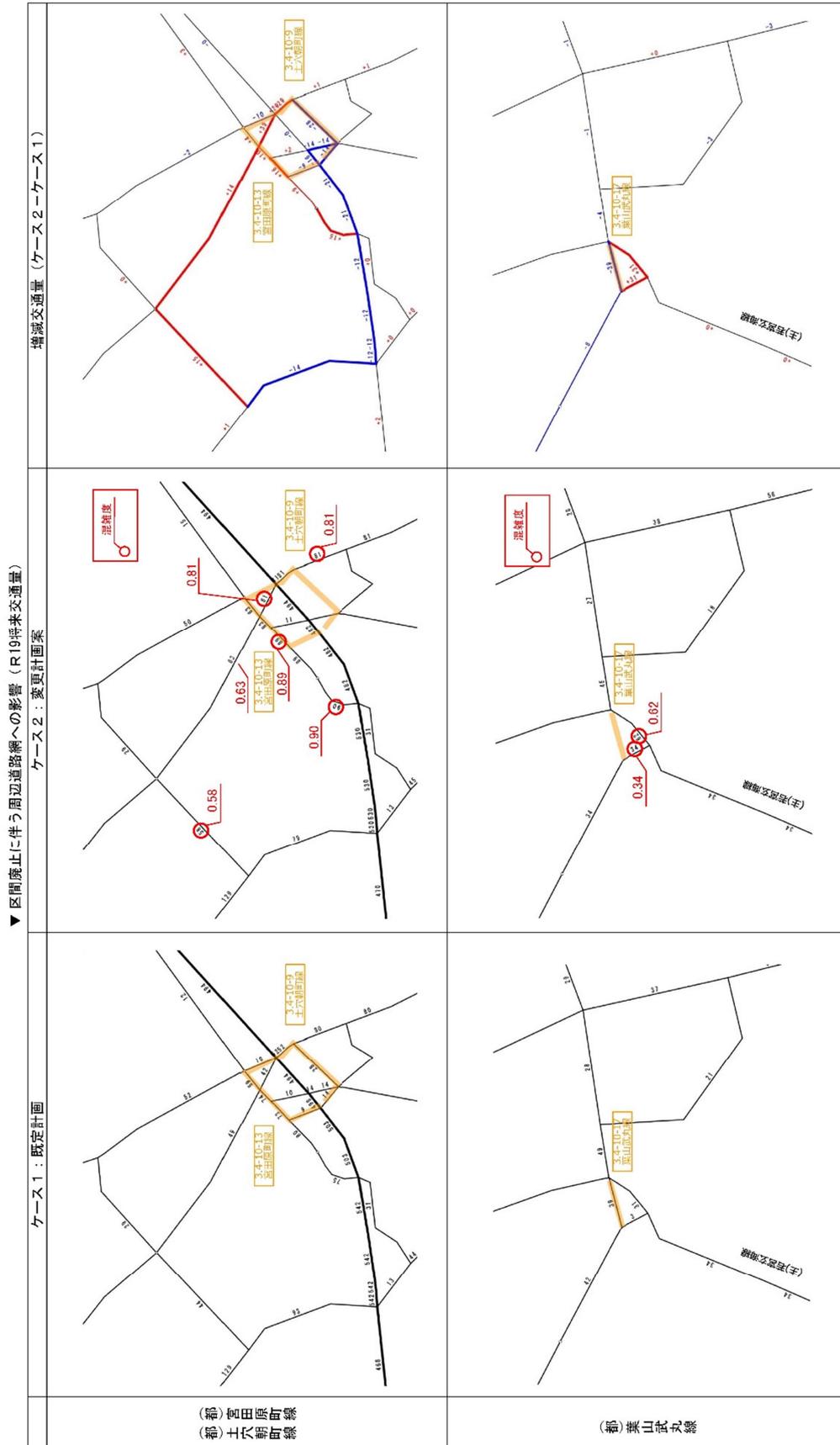
(2) 推計結果 (R19OD)
1) ケース1：既定計画



※この配分結果は、第5回北九州圏内自動車パターン調査のR19自動車OD表を使用して、Dゾーンレベルの配分関係データを参考に宗像市において推計を行ったものである。

(6) 廃止による影響の確認

将来交通量推計において、3区間の廃止によって周辺道路では一部交通負荷の増大が見込まれるものの、その混雑度は全て1.0未満であり、区間廃止による周辺道路への影響は小さいことを確認した。



注：ケース2の混雑度算出に使用した交通容量は第4種第2級（2車線）の設計基準交通量（=10,000台/日）

(7) 都市計画道路網全体の混雑度評価

将来交通需要による道路網評価を実施した結果、混雑度が1.0を超過する路線があることが確認されたが、1.25を超過することはないため、道路網として妥当と判断した。

